

受け皿

2025.10.3

9月の福島支部新人大会を経て、まもなく県北地区の新人大会が行われる。大会にクラブチームが参加している状態にも慣れてきた。馴染んできた。当然の結果といえばそれまでだが、大会の上位をクラブチームが占めている。

ソフトテニスで数年先をイメージしてみる。福島市で大会に出てくるクラブチームは、現在のところ3つである。ジュニアのクラブチームの中学生版が多くなる。中学生になっても、指導者は変わらない。指導者の中には、もう何十年も子どもたちの指導に携わっている方もいる。頭が下がる思いである。

このままクラブチームが増えないまま、中学校で部活動を行わなくなつたとする。現在、市内にソフトテニス部がある中学校は12校である。部員数を男女で1校あたり30人とする。合計で約300名の選手がいると仮定する。

この人数を3つのクラブチームに移行させてみる。1クラブに100人となる。現実的ではない。ではどうなるのか。ソフトテニスをやる中学生が減るということだろう。受け皿が足りない。だからといって、競技力低下につながるとは思わない。それはまた別な話である。

ソフトテニスに限らず、運動をしなくなる中学生が増えるということではないか。では、クラブチームが増えていくのか。ジュニアのクラブチームが、そのまま中学生のチームをつくってくれれば、増やすことはできる。だが、そう簡単なことではない。チームに携わる指導者の熱意と善意に頼る形となる。あるいは、今まで部活動の顧問だった熱心な教員が、自分でクラブチームを立ち上げるかもしれない。

部活動がなくなり、クラブチームでの活動となれば、ソフトテニスをやる中学生は減るだろう。その一方で、小学生は増えていくように思う。小学生がスポーツに親しむのはよいことである。ただ、早い段階から勝つことに執着しすぎるのはよくない。勝ちにこだわるのは、小学生というよりも保護者や指導者である。最初は、そんなに一生懸命ではなかったものが、大会に出るようになり、勝敗がつくようになると、だんだんと勝ちたくなってくる。誰もが負けたくないと思うのが自然である。

勝とうとするのは仕方がない。大事なのは、育成方針であろう。将来、中学生、高校生になっても、伸びていくようなスタイルを身につけさせたい。目先の勝ちを意識しながらも、その選手の将来の姿をイメージしてあげることも必要なのではなかろうか。型にはめない、小さくまとめない、けがをさせないなど、先を見据えた指導が求められる。

中学校の部活動を行っている。大会では、クラブチームにあたるまでは負けないようにしようなどと言ってしまいがちである。昔は、どうにかしてジュニア出身の選手を倒そうとしていた。時代は変わった。数年先を見据えて、もう少し受け皿が増えていくことを望みたい。